



Amir Tsarfati

## [ウィークリー・ニュースレター 2021年2月5日～11日]

「すべての別れは死の予兆を感じさせ、あらゆる再会は蘇りの暗示を与える。」  
原文 “Every parting gives a foretaste of death, every reunion a hint of the resurrection”  
アルトウール・ショーペンハウアー(19世紀ドイツの哲学者)

先週の木曜日(2/4)、検疫期間を終えた時、私はまさによみがえりを味わいました。懐かしい家族に会えた喜び。長かった旅が終わりを告げた達成感が湧き。そして、ついに家に帰って来たという平安がありました。この経験の一つ一つをやがて、死後(墓から)なのか、生きたまま携挙で上げられるかを問わず、復活の時にまた味わうこととなるでしょう。そしてその時には、初めてメシア・イエスの顔を見られるという、信じられない特典付きです。ああ、どれほど(感動的な)日になるのでしょうか！

オフィスにも戻れて嬉しいです。家で、妻や子どもたちと一緒にいる時は、できるだけ家族に集中したいと思います。ですから、ミニストリーの働きが職住近接でできるのは良いことです。オフィスのスタジオから行うオンラインイベントも再開します。技術的な問題で昨日の「中東アップデート」が上手く配信できなかったのは残念でしたが、今日(2/11)再チャレンジしたいと思います。[※日本時間12日午前3時から既に配信済]週末は、ジャン・マーケルさんとバリー・スタグナー牧師とのオンラインイベントに参加します。

前回お伝えしましたが、私は検疫期間中に、新しいメッセージを数本作ることができました。中でも特に楽しみな1本は「御霊と花嫁は言う“来てください”」です。聖書全体を締めくくる最後の章にはこうあります。

「御霊も花嫁も言う。『来てください。』これを聞く者は『来てください』と言いなさい。  
渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。」  
(黙示録 22:17)

これは、救い主が来られて、私たちをみもとに連れて行ってくださることを望む、教会の切実な姿を描写した素晴らしい「写し絵」です。

この聖句はまた、救いをもたらす“いのちの水”に人々を引き寄せるため、聖霊と教会が共に働く術(すべ)を思い出させます。私たち信徒がキリストの愛を日常生活で実践するとき、聖霊は働かれイエスの血による赦しと、イエスの復活による“永遠のいのち”の真理を明らかにします。私たちは共に、未だ救われていない世界に「来てください」と呼びかけます。聖霊と花嫁、何と完璧なチームでしょうか。トム・ブレイディ(アメフト選手:タンパベイ・バッカニアーズのクォーターバック)の猛攻でも、撃沈(阻止)できる“ツワモノ”チームです！

救い主の再臨を求めらる中で、主はどのように応えてくださるのでしょうか。

「これらのことをあかしする方がこう言われる。  
『しかり。わたしはすぐに来る。』  
アーメン。主イエスよ、来てください。」(黙示録 22:20)

中東情勢について

ジョー・バイデン大統領は、第一回目“外交政策演説”で、地政学的情勢に対応する理路整然とした(政権



Amir Tsarfati

## [ウィークリー・ニュースレター 2021年2月5日～11日]

の) 政策や行動計画よりも、一誰の驚きにも値しない彼の「価値観」について語り、最終的に「アラブの春」につながった、バラク・オバマの「世界よ、罪を犯した我々を赦し賜え」戦略を彷彿させるバイデンは、より優しく穏やかな保安官を、各国に周知するつもりようです。しかしながら、この新しい保安官は、見覚えがあります。少なくとも外交政策面では、新政権は“先先代のボス”と同じ政策を取るようです。バイデンは、ドナルド・トランプ大統領が成し遂げた多くの成果を、元に戻すことを期待されており、これはイスラエルにとって朗報ではありません。米国が築いた緊密な中東同盟国は、新大統領によって本質的に「亡霊化」されており、初の外交政策演説では言及すらされていません。私は「アラブの春」がもう一度起こり得るとは思っていない一方で、バイデンがこの地域にもたらす政情不安定化の不協和音は、エゼキエル 38 (戦争) のシナリオへ中東を整えるだろうと考えます。

行政機関がイスラエルを避けている間に、議会は驚くほどポジティブな動きをしました。97 対 3 という圧倒的な投票数で、連邦上院議会は米国大使館を恒久的にエルサレムに置くことに同意したのです。反対票は、バーモント州のバーニー・サンダース議員、マサチューセッツ州のエリザベス・ウォーレン議員、デラウェア州のトム・カーパー議員など、いつもの顔ぶれでした。これにより、トランプ政権がイスラエルの本当の首都エルサレムに大使館を移転したことは固定化された決定事項となりました。

イスラエルと湾岸諸国であるバーレーン、アラブ首長国連邦 (UAE) との友好関係の深まりが、パレスチナ自治政府 (PA) に悪影響を及ぼしています。パレスチナ難民への資金提供を代行する国連難民救済事業機関 (UNRWA) に対して、バーレーンが拠出した額については数字が出ていませんが、UAE からの支援は激減しています。2018 年は 5300 万ドルだったのが、翌年には 5100 万ドルと微細に減少。しかし、2020 年には UAE からの支援額はわずか 100 万ドルまでに激減。この衝撃的な減少は、パレスチナを直撃しました。UAE がイスラエルと関係正常化する道を歩むと発表したとき、PA はそれを「裏切り」「背信」と呼びました。彼らは UAE とバーレーンから大使を解職し、数カ月後に、ファンファーレなしで帰還させたのです。UAE は、この人格への攻撃に対して、財政的報復を行いました。中東では新たな同盟関係が生まれ、新しい時代を迎えています。これはバイデンとて、元に戻せないことです。

バイデンが問題を起こす可能性があるのは、イスラエルとの関係です。就任から 3 週間が経ちましたが、新大統領はまだイスラエルのネタニヤフ首相と接触していません。現時点では、これを偶然や、見落したと見ることはできません。。これは「暗黙のメッセージ」を伝えるため、意図的に行われた冷遇です。これはパレスチナへの合図なのでしょうか？イランへのメッセージなのでしょうか？彼は急進的な左翼支持者にうなずいているのでしょうか？大統領が新しい公務用の電話を手に入れた時、彼は連絡先をすべて失ったのでしょうか？この冷遇の原因が何であれ、中東全体、特に当事者イスラエル国内では、人々がそれに気づいています。イスラエルの中には、不吉な予感を感じ取り、米国からイスラエルが受け取る 38 億ドルの財政援助を拒否するよう、すでに呼びかけている人もいます。それは思い切ったことではありますが、資金に何か条件が伴う可能性があり、そうなれば、その援助はイスラエルにとってそれだけの価値が無くなります。

バイデン政権が私の住むこの中東地域にどう作用するか、その詳細をご希望の方は、今朝 10 時 (PST) [※日本時間 2/12 午前 3 時に配信済み] の「中東時事アップデート」をご覧ください。また、今週土曜日の午前 10 時から (PST) [※日本時間 2/14 午前 3 時に配信済み] の「預言座談会」もお見逃しなく。ジャン・マーケルさんとバリー・スタグナー牧師と共に、私は「アメリカは世界リーダーの座から降りるのか？」という質問にお答えします。バイデン政権がトランプ大統領の「アメリカ・ファースト」政策から離れつつあること



Amir Tsarfati

## [ウィークリー・ニュースレター 2021年2月5日～11日]

は間違いありません。特にこの問いを聖書預言の目を通して見ていくと、これはアメリカの世界的な役割をどのように変えていくのでしょうか？

金曜日の夜、イスラエル国民の大半が安息日で、政府から庶民まで休んでいる間、国際刑事裁判所（ICC）は、ICC が法的管轄権を持たない領域に“公式に”首を突っ込んで、大忙しでした。このもう一つの典型的「反イスラエル」の動きでは、ICC は声明を発表し、その一部は「多数決により、ICC ローマ規約の締約国であるパレスチナの状況における裁判所の領土管轄権は、1967 年以来、イスラエルによって占領された領土、すなわち、東エルサレムを含むガザと西岸にまで及ぶことを決定した」と述べています。考えてみてください-イスラエルが加盟すらしていない国際機関（ICC）がここにおいて、国家の主権領域の一部を管轄していると言っているのです。バイデン国務省も批判しており「深刻な懸念がある」と言っています。このような反ユダヤ主義的な暴挙は、この司法機関では全く珍しくありません。

ロシアの話をお聞きください！こんなことを言う機会は滅多にありません。しかし、先週、ロシアはシリア軍と協力して、1982 年レバノン戦争「スルタン・ヤコブの戦闘」で、約 20 年前に戦死したイスラエル兵 2 人の遺骨を捜索してくれました。イスラエル兵 21 人が死亡し、30 人以上が負傷したこの戦いで命を落としたのは、ツヴィ・フェルドマンとイエフダ・カツェントとみられています。2 年前、ロシア軍は、同じ戦いで戦死したザカリー・バウメル戦車司令官の遺骨を発見し、埋葬のためイスラエルへの帰還に尽力してくれました。ロシアには、この若者たちを故郷の地に帰還させてくださったことを感謝します。

聞いても誰も驚きませんが、昨年、国際原子力機関（IAEA）は、イラン政権が査察を拒否していた少なくとも 2ヶ所の核施設から放射性物質の痕跡を発見しました。核活動がいつ行われたのかは不明ですが、イランが核協定の条項に違反し続けていることを裏付けるより多くの証拠を示しています。イラン指導部の修辭表現は、自分たちが核保有国であることが将来明らかになる時に向けて、世界に準備工作をしているように見えます。火曜日、イランのマフムード・アラビ情報大臣は「我々の核開発は平和的であり、最高指導者のファトワー※脚注 1 は核兵器を禁じているが、もしイランをその方向に押したのなら、それはイランのせいではなく、押した人のせいになるだろう」と述べました。関連ニュースとして、イスラエルの情報機関は、2 年以内にイランが核爆弾を持つだろうと予測しています。

「アーヤトッラー・アリ・ハメネイの最近のツイートは？」の中で、イランの最高指導者は「ポスト・アメリカの時代が始まった」と、次のような珠玉のツイートをしています。彼は正しいのでしょうか、それともいつもの不機嫌な自分になっているだけなのでしょうか？繰り返しますが、土曜日 (PST) ※ジャン・マーケルさん、バリー・スタグナー牧師、そして私が参加する「預言座談会」をお見逃しなく。「アメリカは世界リーダーの座から降りるのか？」我々は一度だけ、実際にハメネイに同意するかも知れません。

[※日本時間 2/14 午前 3 時から配信済み]

ロシアを称賛したり、イランの最高指導者に同意する可能性さえある今回のニュースレターは、確かに「異例の展開」で綴られているかも知れません。

ミニストリーについて

ヤングアダルト弟子育成 (YAD) ミニストリーの新しい座談会「御言葉、世界、あなた」は、力強く歩み続け



Amir Tsarfati

## [ウィークリー・ニュースレター 2021年2月5日～11日]

ています。この隔週の学びは、若い人たち（18～26歳）を神や道徳から引き離そうとする社会的潮流の中で、聖書的な世界観を育むことに焦点を当てています。次回の勉強会は2月20日（土）午前10時（PST）[※日本時間2/21（日）午前3時]です。

月曜日には、Zoomで聖餐式を含む「特別オンライン祈禱会」を開催しますので、ぜひご参加ください。忘れずに前もって聖餐式の準備しておいてください。これは信者が本来地域教会で行うべきことの“代わりになるもの”ではありません。しかし、ビホールド・イスラエルは、しばらく教会に集えていない信徒が多く居ることを把握しています。私たちの願いは、イエスが十字架上で私たちのためにしてくださったことを、キリストのからだと共に祝う聖餐式を切望している、多くの信者の方々はその機会を提供することです。

イスラエルの空港が、海外からの入国に対して閉ざされているのは「聖書体験イスラエルツアー」にとって、あまり望ましい事ではありません。イスラエルに入国できなければ、イスラエルを案内することができませんから、適切な時期に渡航禁止が解除され、観光ツアーが再開できるようにお祈りください。私たちは今、これまで以上に人々にイスラエルを見せる（Behold Israel）必要があります。

私達は、人々がイスラエルを訪れるのを見たいと願っているだけでなく、時が来たら私も旅に出たいと思っています。マイク牧師と私が、4月にブラジルに行く扉が開かれるようお祈りください。現地の教会は準備ができていますし、人々も準備ができていますが、渡航できるようになる兆しが見えません。しかし、実現への希望の光はまだありますし、もしそれが神の御心であるならば、すべての障害を主が取り除いてくださることを私たちは知っています。同じように、秋に予定されているすべてのカンファレンスのために祈りを続けてください。これらの規制措置がいつまで続くか分かりません。

秋のカンファレンスの一つに、テキサス州フォートワースで開催される「Awaiting His Return」があります。テキサスに再び行くのが待ち遠しいです。素晴らしい講演者をラインナップしました。登録は6月に開始されます。秋に開催予定の他のカンファレンスも併せて準備を進めていますので、ご期待ください。

最後に、イスラエルが「神殿の再建準備のため“神殿の丘”で測量している」というセンセーショナルな記事に注意してください。こういった報道の多くは「信頼できる情報筋から得たニュース」と主張しますが、実際には“でっち上げ”です。覚えておいてください。神殿が再建されるのは、唯一「“反キリスト”が権力を握って、イスラエルと取引する時」だけです。しかし、最終的には、イスラエルに背を向けて裏切り、神殿で荒らす忌むべきことを行う時に、彼の欺瞞が暴かれることとなります（ダニエル 9:24-27、第二テサロニケ 2:1-12 参照）。

では、こういった“ニセ情報”が不真実だと、どうやって見分けるのでしょうか？聖書をご覧ください。そこに真実が書いてあります。ヨハネは、私たちが“耳を傾ける”霊を試すよう促します。このアドバイスは、ニュースソースや聖書教師を見極める上で良いことです。聖書に裏付けがないなら、その情報サイト／人から立ち去りましょう。

愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです（第一ヨハネ 4:1）



Amir Tsarfati

## [ウィークリー・ニュースレター 2021年2月5日～11日]

主の再臨を待ち望む  
アミールツアルファティ

<https://mailchi.mp/beholdisrael/amirs-weekly-roundup-july-7-22-1006365>  
<NEWS>

■イラン情報相、核科学者のトップが軍内部者に殺害されたと明かす

2021年2月9日

イランの核兵器開発秘密計画の背後にいると考えられていた核開発科学者は、IRGC（革命防衛隊）のメンバーによって殺害されていた。

■国連核監視団、イランの JCPOA 違反で新しい証拠を発見

2021年2月8日

放射性物質の痕跡が発見された場所のうち、少なくとも一つは、数ヶ月前にイスラエルのベンジャミン・ネタニヤフ首相によって名指しされていた。

■バイデン氏、トランプ政権が課したフーシ派へのテロ組織指定を覆す

2021年2月6日

新政権は、イエメンのフーシ派反政府勢力が「テロ組織リスト」から除外されると発表。報道官は、この決定はフーシ派に対するバイデン政権の見解を変えるものではないと主張した。

■米国上院の投票：エルサレムに大使館を置き続ける案件で賛成多数

2021年2月5日

2018年トランプ政権が行った米大使館のエルサレム移転（旧所在地：テルアビブ）は、本日、米上院で追認擁護された。投票は共和党議員2人の動議によるもの。異議を唱える反対票は3票だった。

---

※脚注

1. イスラム教においてイスラム法学に基づいて発令される勸告、布告、見解、裁断のこと。

出典：Wikipedia